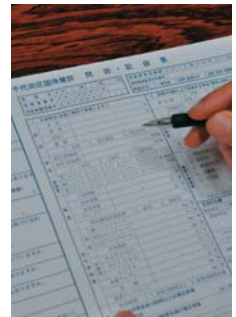


41 健診の受診率向上に向けた仕組みをつくります



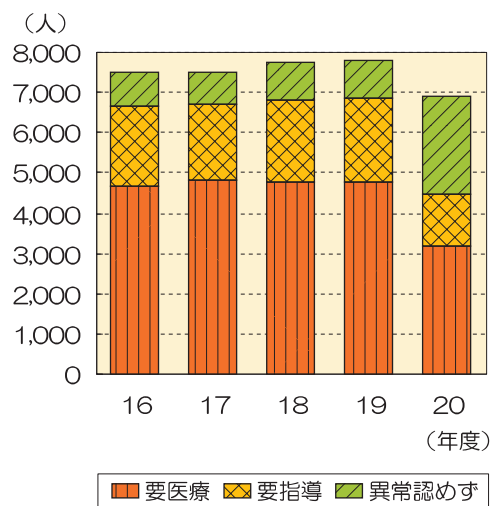
区民がいきいきと健康で生活し続けられるよう、健診体制の充実を図ります。



現状と課題

- 心疾患、脳卒中、糖尿病の原因とされる生活習慣病の有病者・予備軍の早期発見・予防に取り組む必要があります。
- 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）該当者に対する予防・改善施策に積極的に取り組む必要があります。
- 死亡率の高いがんの予防対策に重点を置く必要があります。
- 受診方法や仕組みが複雑でわかりにくい状況があります。

健診の受診状況

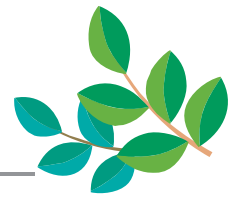


※平成20年度以降の制度改正により、国保、長寿以外の社保等（がん・成人健診受診者）の区民については、特定健診項目で要医療や要指導になった人数は把握していません。すべて「異常認めず」でカウントしています。

資料：保健福祉部

課題解決の方向性

- 生活習慣病予防やがん検診などの疾病の早期発見のため、区民が受診しやすい体制を構築します。
- 加入医療保険による健診項目に差が出ないように配慮します。
- 疾病等に関する正しい知識の普及啓発、健康管理の必要性の啓発等により、区民健診の受診率の向上を図ります。



めざすべき5年後の姿

- 区民にわかりやすい健診の仕組みが確立され、情報が一元管理されている。
- 各種健診の受診率が向上し、疾病者が減少している。



- 健診の結果、要医療になった場合、必要な時に必要な医療が安心して受けられる体制が確保されている。

5年後の姿を実現するための主な取組み

取組項目	取組内容
特定健診、成人健診など	加入する医療保険によって異なる健診体制を区民に分りやすく整理し、健診項目の差を少なくするため、実施機関との調整や周知方法の改善を行います。
健診効果の測定	区では様々な健診を実施しています。目標の達成状況、健診結果や生活習慣の改善などの成果について評価を行い、改善に役立てます。
総合健診システムの導入	わかりやすく総合的に健診案内ができるシステムを導入します。
がん検診の充実	がん予防プランにもとづき、早期発見・早期治療につながるがん検診の受診率向上に努めるとともに、効果の検証を行います。
若年期からのメタボリックシンドローム予防	若年期からのメタボリックシンドロームを予防するため、食育や運動習慣の定着、ストレス解消の取組みを推進していきます。

千代田区第3次基本構想の視点

- 2 福祉の心が通いあう、安心と支え合いのまち
- 10 生涯にわたり健康な生活を営むことができるまち

42 いきいきと自分らしく生きるために心の健康づくりを推進します



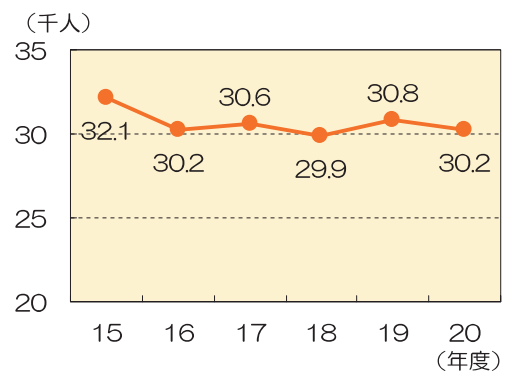
心の健康に関心を持ち、早期発見、早期治療につながるよう、心の健康づくりを推進します。



現状と課題

- うつ病などの心の病が増加しています。
- 自殺による死亡者が全国的に3万人を超え、対策が求められています。
- うつ病は内科にかかることが多く、精神科との連携が必要とされています。
- 相談機関の連携体制の構築が求められています。

人口動態統計における自殺者数の推移



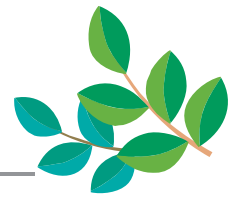
資料：内閣府「平成22年版 自殺対策白書」

課題解決の方向性

- うつ病など心の病に関することや、相談機関について普及啓発を行います。
- 健診の際に心の健康についての問診を追加します。
- 相談機関でのネットワークの構築を行います。

めざすべき5年後の姿

- 相談機関の場所が周知されている。
- 健診の機会に相談ができる体制が整備されている。
- 相談しやすい窓口が設置され、相談機関ネットワークができている。



5年後の姿を実現するための主な取組み

取組項目	取組内容
内科と精神科との連携づくり	区民健診にうつ病のチェック項目を追加し、うつ病などの実態把握に努め、内科医が精神科医を紹介する仕組みを構築します。
相談体制の充実	保健所と医療機関、障害者福祉センターが連携して、区民にわかりやすい相談体制を充実します。
地域サポートネットワーク	地域で暮らす精神疾患患者を地域で見守り、早期に対応できるよう生活相談員※を含めた支援体制を構築します。
新千代田保健所の整備	2か所に分散している千代田保健所の機能を集約し、急病患者の応急診療を実施するなど、機能強化を図るとともに、健康情報の発信や相談機能を充実させた新保健所として整備します。

※生活相談員とは、精神疾患や心の病気の患者の日常生活相談や、身近な日常生活支援に応じることにより、患者の心を開き、ケアを行う地域ボランティアのことです。

新千代田保健所

- 所在地：九段北 1-2-14
(旧東京区政会館別館跡地)
- 施設規模：延床面積 2,857.69 m²、
地上7階地下2階
- 建設経費：12億4,922万円
- 開設：平成22年9月



区内の医療機関マップ



区民が気軽に受診できるように、区内の精神科・神経科・心療内科の46医療機関マップを作成し、相談窓口も掲載しています。



千代田区第3次基本構想の視点

- 福祉の心が通いあう、安心と支え合いのまち
- 生涯にわたり健康な生活を営むことができるまち

43 食を支える歯の健康づくりを推進します



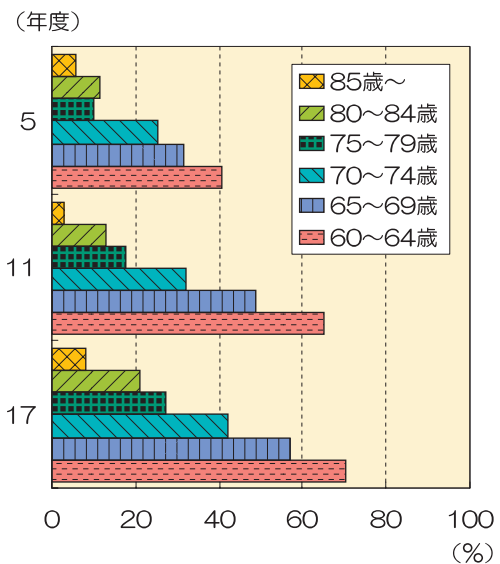
一生自分の歯で食べられるよう、歯や口の健康づくりを支援します。



現状と課題

- 生涯を通じて、むし歯や歯周病を予防するための取組みが必要です。
- 80歳で自分の歯が20本以上ある人の割合は増加しているが、歯周病の罹患は多い状態にあります。
- 子どもから高齢者まで、健康づくり・生きる力の基本として、食とそれを支える歯の健康の大切さが再認識されています。

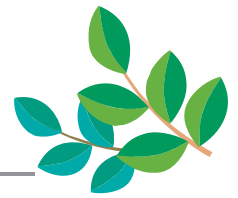
自分の歯が20本以上ある人の割合



資料：厚生労働省「平成21年版厚生労働白書」

課題解決の方向性

- 子どもから高齢者までいきいきと健康に過ごせるように、歯や口の健康に関する知識の普及啓発を行います。
- むし歯や歯周病の早期発見や予防のため、生涯を通じて定期的に歯科健診を受診するように働きかけます。
- 保育園・幼稚園・学校や地域・企業等と連携・協力して普及啓発活動を行い、食への関心を高めます。



めざすべき5年後の姿

- 子どもから高齢者までの誰もが、年に1回以上の歯科健診を受けている。
- 高齢者のうち、自分の歯が20本以上ある人の割合が、平成17年度に比べて5ポイント以上増加している。
- 食事バランスガイド※等を参考に食生活を送る人の人数が増加している。
※食事バランスガイドとは、1日に「何を」「どれだけ」食べたら良いかが一目でわかる食事の目安です。①主食 ②副菜 ③主菜 ④牛乳・乳製品 ⑤果実 の5つのグループの料理を組み合わせ、望ましい食事の取り方やおよその量をイラストで示しています。

5年後の姿を実現するための主な取組み

取組項目	取組内容
歯科健診の充実	生涯を通じて歯の健康を維持するために、歯科健診受診の促進を働きかけ、歯の健康記録として歯科健康手帳を配布します。
高齢者への口腔ケア	生活機能の低下をできるだけ遅らせたり、高齢者がおこしやすい誤嚥性肺炎（ごえんせいはいえん）を予防するために、高齢者を対象とした口腔ケアを推進します。
食育の推進	知・徳・体の健全な発達と同時に、人格形成の基礎とも言える食の重要性を認識してもらい、家族のコミュニケーションを深める機会としてもらうため、食育を推進します。

食と歯や口の健康

歯や口の健康は、食と密接な関係があります。20本以上の歯があれば、ほとんどの食べものを噛み砕くことができ、味を楽しみながら食べられます。

歯磨きなどのセルフケアと、かかりつけ歯医者でのプロフェッショナルケアで自分の歯を守ることが大切です。



出典：厚生労働省資料「歯の数と食べられるものの関係」

千代田区第3次基本構想の視点

- 2 福祉の心が通いあう、安心と支え合いのまち
- 10 生涯にわたり健康な生活を営むことができるまち